

栄町史調査報告書第3集

千葉県印旛郡栄町神社・寺院棟札集成補遺

栄町史編さん委員会

平成九年三月

栄町史調査報告書第3集

千葉県印旛郡栄町神社・寺院棟札集成補遺

栄町史編さん委員会

序

平成三年一二月二〇日に町史編さん委員会から栄町史編さん基本計画（案）が答申されました。その趣旨に「本町の歴史、文化遺産等を史実に基づき、調査、収集及び記録し、永く後世に伝え愛郷心の高揚を図るとともに、町勢の発展に寄与することを目的とする。」とあります。

そして、このことを踏まえつつ、本町の基本構想に掲げる将来像「水と緑の田園観光都市」を実現するための第2次基本計画においては、本町の歴史、文化遺産等を史実に基づき、調査、収集及び記録し、歴史資料として公文書等の保存及び利用に供することにより町民の愛郷心の高揚を図るための町史編さん事業を進めることとし、刊行物については多方面での活用が期待されているところとしています。

さて、今回の調査報告書は、先に刊行した『神社棟札集成』、『寺院棟札集成』の補遺にあたるものです。町史編さん事業の一環として行っている文化財・社寺悉皆調査の中で得られた資料の中から、特に各神社の造替の歴史を伝える銘札を中心に掲載することにより『神社棟札集成』を補完できたものと思われまふ。

本書の刊行が今まで明らかにできなかった神社及び寺院等の歴史を解明する一助となり、また広く文化財保護思想の啓発・普及に役立てば幸いです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり精力的に調査、編集作業を進めていただいた栄町史編さん委員会専門委員（文化財・社寺部会）編集委員山田和夫氏、山本正司氏、調査研究員植野英夫氏をはじめ、高塚馨氏、渡辺善司氏、清水邦俊氏、芝野悦子氏、谷口裕恵氏、小池久美子氏のご尽力、また多大なるご協力を賜りました栄町史編さん委員会委員、栄町文化財審議会委員の方々並びに各神社・寺院等の関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

平成九年三月

栄町長 藤江 恭

例 三〇

一 本書は、栄町史調査報告書第3集として、千葉県印旛郡栄町の神社及び寺院等に現存する棟札の調査記録をまとめたもので、『神社棟札集成』、『寺院棟札集成』の補遺にあたるものである。

二 本書で扱った史料は、本殿・拝殿内及び本堂内に保存されていた棟札・銘札が主である。他に神社及び寺院等の造替に関する資料として、建物の部材墨書銘、額銘、石造物銘、文献史料等も取り上げた。

三 本書は、表を含む考察・資料編と、写真を含む銘文編・写真からなる栄町江戸以前神社・寺院棟札写真編で構成される。翻刻した棟札と神社及び寺院等には通し番号を付けた。

四 本文の寸法は、尺貫法を使用した。

五 本文の執筆は、考察編第一章及び第二章を山田和夫、第三章を植野英夫が担当し、銘文編は、山田和夫、植野英夫、及び栄町史編さん室が共同であったり、索引は、植野英夫があたった。

六 写真及び本書の編集は、栄町史編さん室があたった。

- 町史編さん室 室長 瀬ノ尾麗子
- 係長 荒井信司
- 主任主事 武田修
- 主事 細田知子

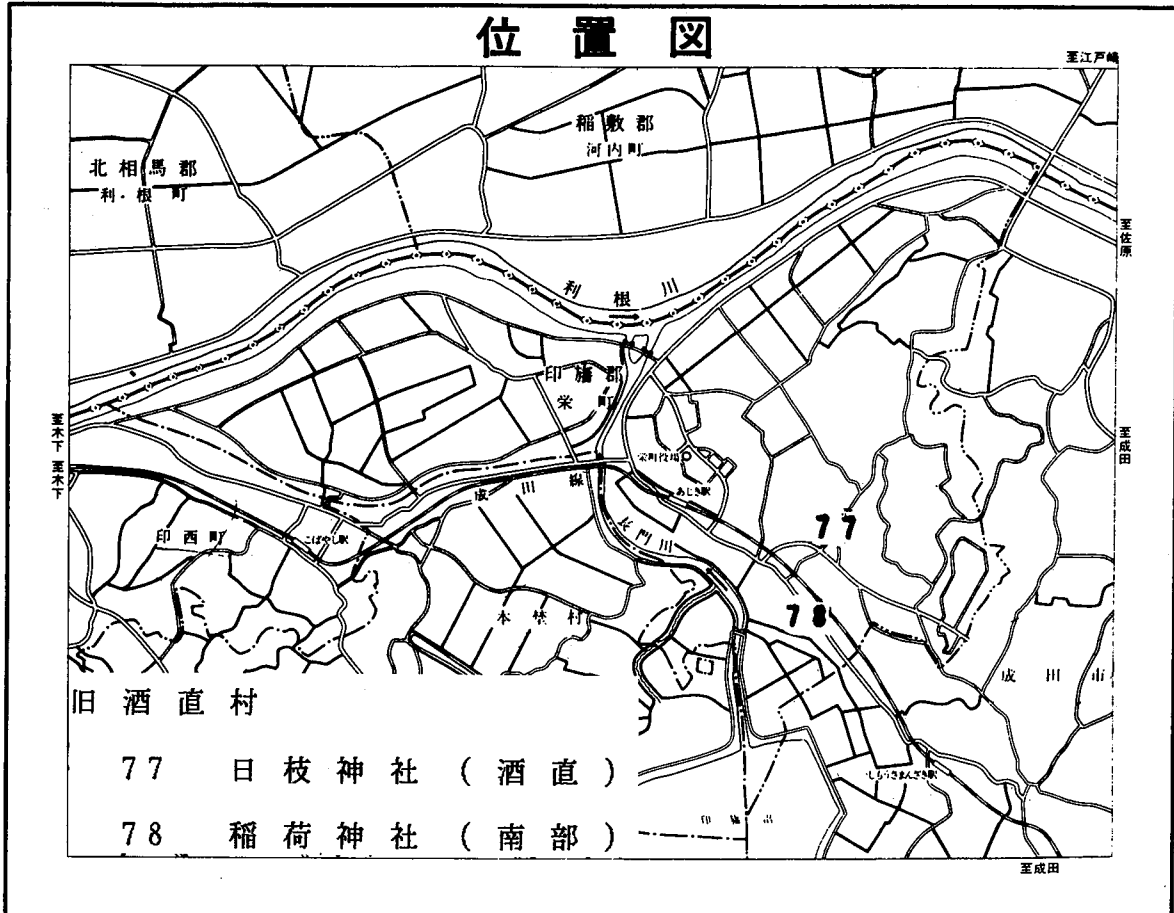


図 1 栄町管内図 (付神社分布図新規)

考 察 ・ 資 料 編

- 第一章 栄町神社・寺院棟札の概要
- 第一節 概説
- 第二節 神社・寺院一覽補遺
- 第二章 神社・寺院工匠一覽補遺
- 第三章 文献資料

神 社 銘 文 編

安食地区

- 一 旧安食村
- 159 愛宕神社 愛宕神社・川崎神社両□□修□寄附□□銘札
大正三年(一九一四)
- 160 愛宕神社 愛宕神社・川崎神社修繕寄附芳名銘札
昭和四〇年(一九六五)
- 161 八坂神社 八坂神社本社修繕寄附芳名銘札
昭和一〇年(一九三五)
- 162 八坂神社 御神輿一社奉納額
昭和一年(一九三六)
- 163 八坂神社 八坂神社神輿一社新調寄附者芳名銘札
昭和一年(一九三六)
- 164 八坂神社 旧拝殿羽目板墨書
(昭和)
- 165 八坂神社 八坂神社移転・拝殿再建銘札
昭和六年(一九八六)
- 166 八坂神社 八坂神社本殿拝殿改築・神域整備竣工棟札
昭和六年(一九八七)

- 167 熊野神社 當社屋根替□附連名銘札
明治年間
- 168 熊野神社 屋根改造棟札
昭和七年(一九三二)
- 169 熊野神社 熊野神社本社屋根改造寄附芳名銘札
昭和八年(一九三三)
- 170 熊野神社 熊野神社改築棟札
昭和五年(一九七八)
- 171 熊野神社 熊野神社改築奉加御芳名銘札
昭和五年(一九七八)
- 172 天神社 大元尊神上棟棟札
嘉永五年(一八五二)
- 173 天神社 改修工事費寄附芳名銘札
昭和三年(一九五六)
- 174 天神社 棟札
昭和五年(一九八四)
- 175 天神社 天神社修復奉納御芳名銘札
昭和六〇年(一九八五)
- 176 弁財天神社 安食辨財天建立の由来石碑
昭和二八年(一九五三)
- 177 弁財天神社 天光龍王瓊菊辨財天石碑
昭和二八年(一九五三)カ
- 178 駒形神社 本殿水引虹梁上彫刻銘
文化三年(一八〇六)
- 179 駒形神社 本殿廻縁擬宝珠金具刻銘
文化三年(一八〇六)
- 180 駒形神社 駒形神社境内編入記念の記銘札
大正一四年(一九二五)
- 181 駒形神社 駒形神社拝殿改築記念奉納額
大正一四年(一九二五)
- 182 駒形神社 石造鳥居献奉石碑
昭和四九年(一九七四)

- 183 駒形神社 駒形神社本殿改築工事奉納者芳名額
昭和五年(一九七七)
- 184 大鷲神社 大鷲図絵馬墨書
寛永一〇年(一六三三)・安永六年(一七七七)
- 185 大鷲神社 大鷲宮石華表寄附連名石碑
天保一年(一八四〇)
- 186 大鷲神社 神号銘札
年欠
- 187 大鷲神社 鷲賀岡神社社務所修繕記念額
昭和九年(一九三四)
- 188 大鷲神社 鷲賀岡神社社務所修築寄附芳名銘札
昭和九年(一九三四)
- 189 大鷲神社 大鷲神社拝殿幣殿新築棟札
年欠
- 190 大鷲神社 幣殿併玉垣修繕料志納者芳名銘札
昭和二六年(一九五一)
- 191 大鷲神社 幣殿□玉□修繕料志□者芳名銘札
昭和二六年(一九五一)カ
- 192 大鷲神社 敷石石階寄志石碑
天保七年(一八三六)
- 193 大鷲神社 大鷲神社女人坂改修記念銘札
昭和三年(一九五七)
- 194 大鷲神社 女人坂改修寄附者芳名銘札
昭和三年(一九五七)
- 195 大鷲神社 大鷲神社石坂修復記念額
昭和五年(一九七九)
- 196 大鷲神社 大鷲宮社号額
年欠
- 197 大鷲神社 御嶽神社移宮棟札
昭和四年(一九六七)
- 198 大鷲神社 石上神社本殿再建棟札
大正七年(一九一八)
- 199 大鷲神社 魂生大明神石製御神体刻銘
昭和五〇年(一九七五)

- 200 大鷲神社 魂生大明神木製御神体刻銘
昭和五年(一九七六)
- 201 大鷲神社 魂生大明神建立寄附者名銘札
年欠
- 202 大鷲神社 魂生大明神建立篤志寄附者名銘札
年欠
- 203 水神社 (旧安食卜抗新田)
神殿修繕・拝殿新築寄附芳名銘札
昭和二年(一九三七)
- 204 嚴島神社 奥之院改築銘札
昭和五年(一九七七)
- 205 嚴島神社 拝殿改築記念石碑
昭和五年(一九八一)
- 206 嚴島神社 鳥居改築・拝殿屋根葺替棟札
昭和五年(一九四〇)
- 207 嚴島神社 鳥居改築銘札
昭和二六年(一九五一)
- 208 嚴島神社 當社鋪石奇附連名石碑
慶応三年(一八六七)
- 209 嚴島神社 嚴島神社号額
年欠
- 210 嚴島神社 大元尊神上棟棟札
昭和一四年(一九三九)
- 二 旧酒直村
- 211 荒神社 三寶荒神新造立棟札
寛政一〇年(一七九八)
- 212 荒神社 三寶荒神修復棟札
慶応元年(一八六五)
- 213 荒神社 三荒神社葺合銘札
明治一六年(一八八三)
- 214 荒神社 荒神社葺合銘札
大正七年(一九一八)
- 215 荒神社 荒神社本殿改築棟札
昭和四年(一九二九)

三 旧龍角寺村
216 愛宕神社 愛宕宮再修棟札
元禄一二年(一六九九)
217 愛宕神社 愛宕宮再建棟札
文久三年(一八六三)
218 粟島神社 粟嶋神社屋根修繕寄附芳名銘札
昭和七年(一九三二)

四 旧麻生村
219 日枝神社 (屋根普請再興)寄附連名銘札
明治三四年(一九〇一)
220 日枝神社 (家根并幣殿新調)寄附連名銘札
明治四四年(一九一)
221 日枝神社 (拜殿屋根替竣工)寄附連名銘札
大正七年(一九一八)
222 日枝神社 拜殿部材墨書
年欠
223 日枝神社 寄附銘札
年欠

五 旧奥津村
224 浅間神社 浅間神社拜殿新築・本殿屋根替・玉垣屋根替寄附御芳名銘札昭和五七年(一九八二)
225 浅間神社 浅間神社鳥居玉垣奉納護國英靈慰靈祭・出征者歸還報告祭寄附者芳名銘札
昭和二七年(一九五二)
226 浅間神社 浅間神社鳥居奉納寄附御芳名銘札
昭和五二年(一九七七)
227 浅間神社 浅間神社社号額
昭和五七年(一九八二)
228 浅間神社 石尊官勸請銘札
安政五年(一八五八)

七 旧須賀村
244 浅間神社 浅間神社上棟棟札
明治四二年(一九〇九)
245 浅間神社 浅間神社本殿修理棟札
昭和一八年(一九四三)
246 浅間神社 浅間神社改修奉納記銘札
昭和五六年(一九八一)
247 浅間神社 石鳥居再建及石摺新設銘板
明治四二年(一九〇九)

八 旧矢口村
248 一之宮神社 本殿部材墨書
安永七年(一七七八)・安永八年(一七七九)・天明元年(一七八一)
249 一之宮神社 登勾欄擬宝珠柱形添板
文政一〇年(一八二七)
250 一之宮神社 旧鳥居部材墨書
慶応二年(一八六六)・昭和四八年(一九七二)
251 一之宮神社 一ノ宮神社改築銘札
昭和二六年(一九五一)

布鎌地区

一 旧布鎌新田
252 水神社(西) 拜殿安置神輿真柱墨書
文政一一年(一八二八)
253 水神社(西) 添棟札
年欠
254 土師神社(布太) 本殿水引虹梁木鼻刻銘
慶応三年(一八六七)カ
255 土師神社(布太) 金刀比羅神社銘札
明治七年(一八七四)
256 土師神社(布太) 金刀比羅大神御社再建棟札
明治二八年(一八九五)

六 旧北辺田村
229 天神社 本殿部材墨書
年欠
230 天神社 天神社屋根換寄附人名銘札
年欠
231 天神社 天神社拜殿屋根改葺竣工式寄贈者名銘札
年欠
232 天神社 天満宮社号額
文化八年(一八一)
233 天神社 額面寄附総名銘札
明治八年(一八七五)
234 天神社 大六天神輿真柱墨書
年欠
235 天神社 拜殿安置大六天玉神輿祭祀棟札
嘉永五年(一八五二)
236 金刀比羅神社 金毘羅大權現鎮座銘札
文化一二年(一八一五)
237 金刀比羅神社 御宮銅葺壹宇新規再建棟札
天保一二年(一八四一)
238 金刀比羅神社 金刀比羅神社本殿修繕棟札
大正六年(一九一七)

239 大六天神社 大六天皇屋根取替並修理銘札
昭和四五年(一九七〇)
240 大六天神社 大六天王鳥居口寄附者人名銘札
昭和三年(一九五六)
241 金刀比羅神社 諸神祈禱銘札
享和三年(一八〇三)
242 金刀比羅神社 祈禱銘札
享和三年(一八〇三)
243 金刀比羅神社 祈禱銘札
享和三年(一八〇三)

257 土師神社(布太) 金刀比羅大神建立棟札
明治三〇年(一八九七)
258 土師神社(布太) 金刀比羅神社社再々建棟札
大正八年(一九一九)
259 土師神社(布太) 金刀比羅神社修繕棟札
昭和八年(一九三三)
260 水神社(南) 天屋新造立棟札
明和七年(一七七〇)
261 水神社(南) 鎮守拜殿改築寄附芳名銘札
昭和三〇年(一九五五)
262 水神社(南) 本殿屋根改造棟札
昭和三六年(一九六一)
263 水神社(南) 本殿改造寄進銘札
年欠
264 水神社(南) 鳥居新築特別寄附銘札
年欠

265 八幡神社(中谷) 八幡神社鳥居改築寄附芳名銘札
昭和五七年(一九八二)
266 水神社(北) 「」寄附金連名銘札 年欠
・鎮守修理寄附金「」銘札 昭和二六年(一九五一)
267 香取神社(布鎌酒直) 香取神宮屋根葺替工事寄附御芳名銘札
年欠
268 天神社(和田) 本殿小脇板墨書
享保三年(一七一八)
269 天神社(和田) (天神社再建)御寄進者御芳名銘札
昭和六〇年(一九八五)
270 天照皇太神宮(請方) 鎮守修繕寄附連名銘札
大正元年(一九一)

271 天照皇太神宮(請方) 鎮守家根葺替並御遷宮費寄附銘札
昭和四年(一九二九)
272 天照皇太神宮(請方) 鎮守屋根改修費寄附者氏名銘札
昭和二七年(一九五二)
273 天照皇太神宮(請方) 鎮守屋根葺替寄附芳名銘札
昭和三四四年(一九五九)

- 274 天照皇太神宮 (請方) 扉改修奉納銘札
- 275 天照皇太神宮 (請方) 鎮守屋根塗裝寄附芳名銘札
- 276 天照皇太神宮 (請方) 神社屋根工事費寄付芳名銘札
- 277 八幡神社 (請方) 社再建寄附銘札

安食地区 (新規)

- 二 旧酒直村
- 278 日枝神社 日枝神社再建記念棟札
- 279 稻荷神社 幣台墨書
- 280 稻荷神社 栄町南部落創立五十周年記念碑

寺院銘文編

安食地区

- 一 旧安食村
- 104 御堂 (宝塔) 屋根修築寄附銘札
- 五 旧奥津村
- 105 龍昌院 龍昌院須弥壇虹梁裏朱書
- 106 智性院 智性院旧本堂部材墨書
- 107 智性院 観音堂護摩壇刻銘

- 七 旧須賀村
- 108 不動堂 御不動堂・墓地・坂等コンクリート工事寄附者芳名銘札

江戸時代以前神社寺院棟札等写真

索引

考察・資料編

第一章 栄町神社・寺院棟札の概要

第一節 概 説

この神社・寺院棟札集成補遺は、町史編纂にともなう町内に所在する社寺の文化財総合調査の成果の一部である。神社棟札については栄町教育委員会による棟札調査が行われ、平成三年度に『千葉県印旛郡栄町神社棟札集成』が刊行され、神社における建造物の造営に関わる棟札を主体にした銘文が収録されている。寺院棟札については、前述の総合調査の成果を平成六年度に『千葉県印旛郡栄町寺院棟札集成』として刊行した。

寺院棟札については総合調査といった性格から、調査の対象が寺院の造営に直接関わる狭義の棟札以外の、例えば寄附連盟銘札といったより広範な銘文までを収録している。今回は前回の神社棟札集成では割愛した銘文を収録し、内容の面で寺院棟札集成との整合を図ることとした。

神社および寺院棟札集成刊行後の再調査で発見した資料は神社が一二二点、寺院五点で、前回の神社の分一五八点と寺院一〇三点と合わせると、社寺全体で三八八点となる。ただし、旧麻生村の東光院新興寛文二二年（一六七二）棟札は、日枝神社に収蔵されていた関係で神社と寺院棟札集成の双方に重複して収録されているため、実際は合計三八七点である。いずれにしてもこの数値は町内に所在する銘文のほぼ実数に近いであろう。

棟札は社殿や堂宇の造営に関する直接資料であるが、部材に記された墨書はそれ以上に具体的で重要さをもっている。間接的な資料としては神社での祭神勧請札や官位取得札、寺院では山号額などは、社寺そのものの創立や造営となんらかの関連があると見られるところから無視できない資料である。

〔町内棟札等内訳〕

合 計	寺 院			神 社			躰 数	棟札・銘札	部材銘文	社号・山号	灯笼・鳥居	その他	合 計
	楯	三	二	楯	三	一							
二七九	八三	二	八一	一九六	七六	一一〇							
三九	二〇	三	一七	一九	一〇	九							
三〇	一	〇	一	二九	一五	一四							
一三	〇	〇	〇	一三	九	四							
二七	四	〇	四	一三三	一一	一一							
三八八	一〇八	五	一〇三	二八〇	一一二	一一二							

銘文資料の点数を神社と寺院とで単純に比較した場合、割合では寺院の方が数の上で圧倒的に多い神社よりも多数の資料が残っているようにみえる。ただし、棟札・銘札と一括した造営の直接資料のうちで、寺院では純粋な棟札が少なく寄附者の連名銘札がその七割余りを占めていて、神社で棟札の占める割合と同じなのと大きな相違であろう。その背景として、寺院の建物は比較的規模が大きく日常使用されることもあって、規模が小さく減多に開扉もされることのない神社の建物に比べ、耐久性や管理の面で造替や修理がそれ程でもなかったことも考えられ、それが棟札類の数に表れているものと考えられる。

棟札調査の意義や棟札の時代的分類、材質や形状、記載内容等については、これまでの神社および寺院棟札集成で述べたとおりであるので、ここでは補遺編に収録したもののうちで、特徴のあるものについて記すことにする。

年代では竜角寺愛宕神社の元禄二二年（一六九九）棟札が最古であるが、工匠が知られるものは興津智性院本堂の正徳六年（一七二六）と和田天神社本殿享保三年（一七二八）が古い例で、いずれも部材に記された墨書であり、前者が地元矢口村、後者が隣村安食村の木工である。総体としては社寺に関わった

工匠特に大工は遠隔地のものが多い傾向があるが、町内最古の棟札である酒直素羽鷹神社万治二年（二六五九）棟札にも小工として安食村の山田五兵衛があり、社寺の造営に在郷の大工が参加していたことが分かる。

一方、矢口一之宮神社本殿は先に天明五年（一七八五）棟札が収録され、大工は地元の藤崎吉兵衛であったことが知られていたが、今回本殿内部から発見した墨書から、この時の工事が少なくとも安永七年（一七七八）には組み立てが始まっていたことや、吉兵衛が武射郡上吹入（現芝山町）の出身であることが初めて明らかになった。このことは、寛文二年（一六七二）に竜角寺二荒神社本殿を手掛けた、下館（茨城県）の出身の伊兵衛が増淵家に入ったケースと良く似ていることから、他国の仕事をしているうちに何らかの縁でやがてはその地に定住してしまうことがあったのであろう。

大工以外の工匠のうち屋根葺職人では、これまで素羽鷹神社宝暦三年（一七五三）棟札が初出であったが、今回布鎌の南水神社明和七年（一七七〇）棟札がこれに次いで古い例となった。ただ、請方の葺師彦右衛門ら四人は葺手間奉仕として工事に関わっているところから、単なる氏子の一員としてでなく専門技術を持った職人として造営に奉仕したと思われる。

彫物師では今回安食駒形神社本殿の向拝中備から田宮定直の刻銘を発見した。この本殿は先の神社棟札集成に収録した棟札から、文化三年（一八〇六）の竣工であることが知られているが、壁面を二十四孝の彫刻で満たしたり、海老虹梁を丸彫りの龍とするなど、同じ様な手法になる天保二年（一八三一）とみられる安食大鷲神社本殿に先行する作品として価値が高いと考えられる。海老虹梁の丸彫りは既に宝暦六年（一七五六）の群馬県妙義神社の社殿に先行した例がみられるが、県内では殆ど例をみない手法をもった本殿が二棟も存在することも珍しいことと思われる。駒形神社本殿の中備は組物間を満たした龍の彫刻で、県内レベルではそれ自体珍しい手法ではないが、田宮定直の氏名に島村の

名を冠しているところから、江戸彫物師の島村系統の工匠であることが知られ興味深い。

また、今回の収録した北辺田金刀比羅神社本殿天保二年（一八四一）棟札には、江戸芳町の彫物師後藤茂右衛門の名がみられ、後藤系統の工匠の活動もこの辺りまで及んでいたことが知られる。大工棟梁は奥州伊達郡川俣村（現福島県伊達郡川俣町）の田崎幸右衛門で、かなり遠方から工匠を招聘していることも知られる。この本殿は先の駒形神社や大鷲神社本殿よりも一層繊細な彫刻が施された建築で、これらは江戸後末期における社寺の建築彫刻を知る実際の資料として貴重である。

前記南の水神社の明和七年（一七七〇）棟札も注目される資料である。主文に「天屋新造立」とあって、打ち付けられた場所や大きさから、内部に安置してある小型の宮殿を納めた外側の覆屋をさしていることが明らかである。これにより先に収録された布太の土師神社正徳三年（一七一三）棟札の「天屋」は内部に安置されている小型の本殿でなく覆屋をさしている可能性が高いが、現在の建物はその後の再建になるため、当時の建築がどの様なものであったかその実際の姿を知ることができない。さらにこの棟札は寄進連名の記載方法とされているが、金銭でなく建設資材を各人が寄進しているところから、造営に際しての村人達の関わりが良く理解でき興味深い。

以上、三編に分けて町内の社寺における銘文の集成を行い、その都度概説してきた。今後は全体を通しての造営に関わった工匠の活動はもちろん、社寺の造営や維持の実態などより細かい考察が必要であると考えられる。

第二節 神社・寺院一覽補遺

No.	社名	所在地	祭神	社殿	棟札	由緒沿革	備考
77	日枝神社	酒直 中郭		本殿 一間社流造	有	昭和五六年本殿再建。	
78	稲荷神社	酒直 落合		本殿 一間社流見世棚造	無	創立記念碑に大正一四年三〇戸の入植者でこの地区が創設されたことが記され、当時の八生村に事務所があった中央開墾株式会社によって本殿が新設された旨の墨書がある。	

平成九年三月三十一日

栄町史調査報告書第3集

千葉県印旛郡栄町神社・寺院棟札集成補遺

編集・発行 栄町史編さん委員会・千葉県印旛郡栄町

〒二七〇一一五 千葉県印旛郡栄町安食台二丁目二番

TEL 〇四七六(九五)一一一一

印刷 株式会社 集 賛 舎

〒二六六 千葉県千葉市緑区古市場町四七四の二六五